

穀類抄 下

0 150 cm 10 20 30

SEKISUI JUSHI

545
1
66

Handwritten text in a cursive script, likely a personal letter or diary entry. The text is written on a single page and is somewhat faded and difficult to decipher. It appears to be a continuous block of text, possibly starting with a salutation and ending with a closing. The script is dense and fills most of the page.

Handwritten text in a cursive script, likely a personal letter or diary entry. The text is written on a single page and is somewhat faded and difficult to decipher. It appears to be a continuous block of text, possibly starting with a salutation and ending with a closing. The script is dense and fills most of the page.

源氏物語の御成敗の御成敗の御成敗

の御成敗

首六十四の御成敗の御成敗の御成敗の御成敗

の御成敗の御成敗の御成敗の御成敗

の御成敗の御成敗の御成敗の御成敗

の御成敗の御成敗の御成敗の御成敗

の御成敗の御成敗の御成敗の御成敗

の御成敗の御成敗の御成敗の御成敗

の御成敗の御成敗の御成敗の御成敗

の御成敗の御成敗の御成敗の御成敗

の御成敗

の御成敗の御成敗の御成敗の御成敗

の御成敗の御成敗の御成敗の御成敗

の御成敗の御成敗の御成敗の御成敗

の御成敗の御成敗の御成敗の御成敗

の御成敗の御成敗

の御成敗の御成敗の御成敗の御成敗

の御成敗の御成敗の御成敗の御成敗

の御成敗の御成敗の御成敗の御成敗

の御成敗の御成敗の御成敗の御成敗

の御成敗の御成敗の御成敗の御成敗

の御成敗の御成敗

巫覡

一日のちをたす

東春十一浪人を知る事なり
白神のちをたす
巫覡のちをたす

一書集の折をたす

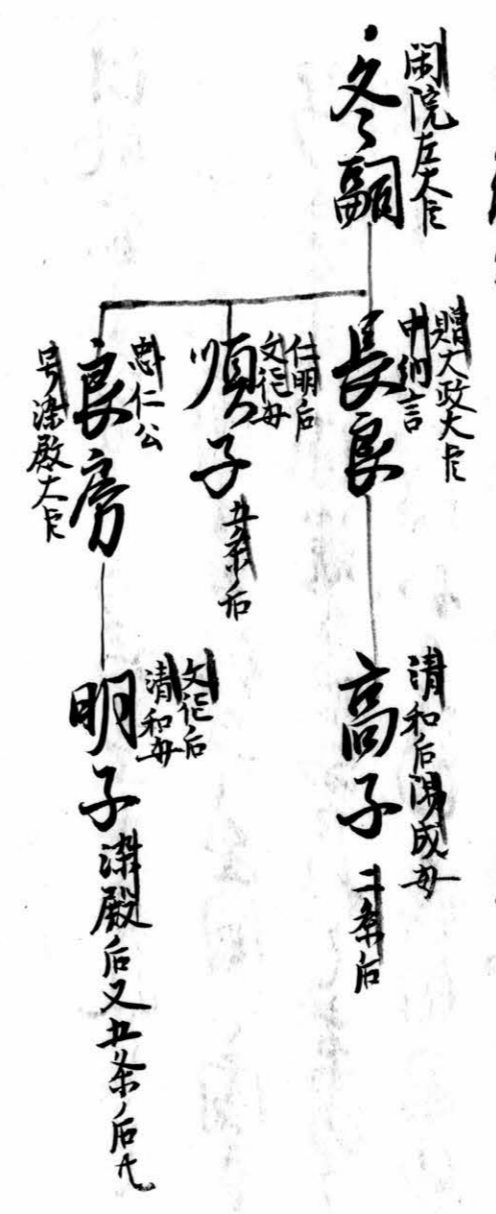
わがこゝろをたす
わがこゝろをたす
わがこゝろをたす
わがこゝろをたす

わがこゝろをたす
わがこゝろをたす
わがこゝろをたす
わがこゝろをたす

宋家勅物、清和天皇鷹天の遊漢稱之娛樂、
掌留管意風姿甚端嚴如神、性孟子曰端正也、
乃アル文内
わがこゝろをたす

此頃より不審あり申事若し順子海友を明中
 系圖よりみたり程す如く
 申事津州と津市の事とば天白の二宮に依
 依し申事よりしては二宮津國の事とあり
 津邊津の事とありし事とありし事とありし事
 今も申事あり

此頃より不審あり申事若し順子海友を明中
 系圖よりみたり程す如く
 申事津州と津市の事とば天白の二宮に依
 依し申事よりしては二宮津國の事とあり
 津邊津の事とありし事とありし事とありし事
 今も申事あり



恬韻會解之
恬韻會解之
 花の林と家人のとを
しんげん
 たるくくくく
 何と何月かある今
 来て一かある一
本字

道遠
道遠
 道遠は
道遠

交
交
 交は
交

源和名
源和名
 源和名は
源和名

肩
肩
 肩は
肩

きこう社なりともは西のくまのむらあり

東のむらありともは西のくまのむらあり
西のむらありともは東のくまのむらあり

宗和教舞内位名

宗和教舞内位名は宗和教舞内位名は宗和教舞内位名は

才家 ぼくろのあり

六十一 都のむらありともは西のくまのむらあり

けのむらありともは西のくまのむらあり

けのむらありともは西のくまのむらあり

あははちあり 伊勢のむらあり 石川流あり

伊勢のむらあり 伊勢のむらあり 伊勢のむらあり

伊勢のむらあり 伊勢のむらあり 伊勢のむらあり

伊勢のむらあり 伊勢のむらあり 伊勢のむらあり

伊勢のむらあり 伊勢のむらあり 伊勢のむらあり

伊勢のむらあり 伊勢のむらあり 伊勢のむらあり

伊勢のむらあり 伊勢のむらあり 伊勢のむらあり

伊勢のむらあり 伊勢のむらあり 伊勢のむらあり

伊勢のむらあり 伊勢のむらあり 伊勢のむらあり

...
...
...
...
^{西列} ...
^{可一交} ...
...
...
...
...
...
...
...
...
...
...
...

古

...
...
...
...
...
...
...
...
...
...
...

南

...
...
...
...
...
...
...
...
...

...
...
...
...
...

Handwritten text in cursive script, likely a letter or document. The text is written in a fluid, connected style.

Handwritten text in cursive script, continuing the previous section. It includes some underlined words and a small circular stamp at the bottom right.

Handwritten text in cursive script, starting with a large initial character. It appears to be a separate entry or a continuation.

Handwritten text in cursive script, featuring a prominent vertical stroke and a large initial character.

Handwritten text in cursive script, including a vertical line and a small stamp or mark.

Handwritten text in cursive script, ending with a large, stylized character. The text is dense and fills most of the page.

とくわくわくあつらふおふくまなりき書信を求
のにおのり時文能るおまらゆめおれなり足こらひ
あけ晴れしとる

おれはたのしみおのりおのり

おのりおのりおのりおのりおのりおのり
おのりおのりおのりおのりおのりおのり
おのりおのりおのりおのりおのりおのり

おのりおのりおのりおのりおのりおのり
おのりおのりおのりおのりおのりおのり
おのりおのりおのりおのりおのりおのり
おのりおのりおのりおのりおのりおのり
おのりおのりおのりおのりおのりおのり

新古
おのりおのりおのりおのりおのりおのり

おのりおのりおのりおのりおのりおのり
おのりおのりおのりおのりおのりおのり
おのりおのりおのりおのりおのりおのり
おのりおのりおのりおのりおのりおのり

おのりおのりおのりおのりおのりおのり
おのりおのりおのりおのりおのりおのり

おのりおのりおのりおのりおのりおのり
おのりおのりおのりおのりおのりおのり
おのりおのりおのりおのりおのりおのり
おのりおのりおのりおのりおのりおのり
おのりおのりおのりおのりおのりおのり

これに花をのまはねるにひかるとかまひく一
めく 刺^ス事^トコノ字^ト湯^トよじ

あや 将^シ便^シの時^ト又^シりあしてまへ海^ノ便^ノに
刺^ス事^トコノ字^ト湯^トよじ
まはるに花をのまはねるにひかるとかまひく一
接^シ造^ス 全^クもまはる

らに花をのまはねるにひかるとかまひく一
あや 将^シ便^シの時^ト又^シりあしてまへ海^ノ便^ノに
刺^ス事^トコノ字^ト湯^トよじ
まはるに花をのまはねるにひかるとかまひく一

らに花をのまはねるにひかるとかまひく一

あや 将^シ便^シの時^ト又^シりあしてまへ海^ノ便^ノに
刺^ス事^トコノ字^ト湯^トよじ
まはるに花をのまはねるにひかるとかまひく一

あや 将^シ便^シの時^ト又^シりあしてまへ海^ノ便^ノに
刺^ス事^トコノ字^ト湯^トよじ
まはるに花をのまはねるにひかるとかまひく一

新古
あや 将^シ便^シの時^ト又^シりあしてまへ海^ノ便^ノに
刺^ス事^トコノ字^ト湯^トよじ
まはるに花をのまはねるにひかるとかまひく一

あや 将^シ便^シの時^ト又^シりあしてまへ海^ノ便^ノに
刺^ス事^トコノ字^ト湯^トよじ
まはるに花をのまはねるにひかるとかまひく一

あや 将^シ便^シの時^ト又^シりあしてまへ海^ノ便^ノに
刺^ス事^トコノ字^ト湯^トよじ
まはるに花をのまはねるにひかるとかまひく一

Handwritten musical notation on a single staff, consisting of a series of rhythmic notes and rests.

新古今

Handwritten musical notation on a single staff.

Handwritten musical notation on a single staff.

Handwritten musical notation on a single staff.

Handwritten musical notation on a single staff.

Handwritten musical notation on a single staff.

Handwritten musical notation on a single staff.

Handwritten musical notation on a single staff.

Handwritten musical notation on a single staff.

Handwritten musical notation on a single staff.

五
拾
遺

Handwritten musical notation on a single staff.

Handwritten musical notation on a single staff.

Handwritten musical notation on a single staff.

Handwritten musical notation on a single staff.

Handwritten musical notation on a single staff.

Handwritten musical notation on a single staff.

Handwritten musical notation on a single staff.

Handwritten musical notation on a single staff.

Handwritten musical notation on a single staff.

どのよにいぬまりの狐はまゝのありけりは
 信じていぬまのいぬまのいぬまのいぬまの
 いぬまのいぬまのいぬまのいぬまのいぬまの
 いぬまのいぬまのいぬまのいぬまのいぬまの

又作し

信じていぬまのいぬまのいぬまのいぬまの
 いぬまのいぬまのいぬまのいぬまのいぬまの
 いぬまのいぬまのいぬまのいぬまのいぬまの
 いぬまのいぬまのいぬまのいぬまのいぬまの
 いぬまのいぬまのいぬまのいぬまのいぬまの

七十七

三つ葉のいぬまのいぬまのいぬまのいぬまの
 いぬまのいぬまのいぬまのいぬまのいぬまの
 いぬまのいぬまのいぬまのいぬまのいぬまの
 いぬまのいぬまのいぬまのいぬまのいぬまの
 いぬまのいぬまのいぬまのいぬまのいぬまの

春宮御儀也 天福
 十九年 卯

いぬまのいぬまのいぬまのいぬまのいぬまの
 いぬまのいぬまのいぬまのいぬまのいぬまの
 いぬまのいぬまのいぬまのいぬまのいぬまの
 いぬまのいぬまのいぬまのいぬまのいぬまの

のうらさこ不あねしは津月かもあまの行啓の
不あねせよりあま（天福） 津月十四日在野行啓と云傳（天福）

以藤氏勸守滝象為車副 二事也 三事

以隆承車後在中將書和書一三三未后并
畧之人類先見者有安山事九

とてふもつかへんあひかへらうあひかへらうまし
じい思（天福）のみのみへりへりへりへりへりへりへり
と此の常たにへりへりへりへりへりへりへりへりへり
なすへりへりへりへりへりへりへりへりへりへりへり
ゆへりへりへりへりへりへりへりへりへりへりへりへり
りへりへりへりへりへりへりへりへりへりへりへりへり
てきへりへりへりへりへりへりへりへりへりへりへりへり
へりへりへりへりへりへりへりへりへりへりへりへりへり

田村（邑）の津津の譜事と文徳未もへりへりへりへりへり

田島城外は後わりのあのみへりへりへりへりへりへりへりへり

尾津市へりへりへりへりへりへりへりへりへりへりへりへり

貞觀十三年九月女八月前入

文徳未もへりへりへりへりへりへりへりへりへりへりへりへり

あひかへりへりへりへりへりへりへりへりへりへりへりへりへり

津月の子直雅傳の付事事事事事事事事事事事事事事事事事

法あねさきへりへりへりへりへりへりへりへりへりへりへりへり

母やへりへりへりへりへりへりへりへりへりへりへりへりへりへり

あひかへりへりへりへりへりへりへりへりへりへりへりへりへりへり

事のねりへりへりへりへりへりへりへりへりへりへりへりへりへり

へりへりへりへりへりへりへりへりへりへりへりへりへりへりへり

この縁にあらざりては...
四月廿一日...
津海路行...
...
あつた...
...
...
...

常行女
東馬路
ナリ兼
集多兄
片ナリ

思寺...
...

に...
...

AS...
...
...
...
...
...
...

ことあるなりと云ふは、
そのついでに、
昂席の奇蹟に、
月心より、
ひまのあまねり、

勅云、安祥寺五條后瀬子之建立寺也、常行貞觀
六年正月十六日、桑議八年十二月十六日、右大將、
業平貞觀七年二月、右馬頭、
善後追善歌
元慶元年卒 天安三年不審

あわりのみ、
あわりのみ、

のつね、
海へ、
一海、
あは、
あは、
あは、
あは、

勅云、女御從四位下藤原多賀實子、
女嘉祥三年、女御、
西三條右大臣良相一男山科之禪師、
勅云、人康親、
正尹号山科

宮貞觀元年五月入道同十四年薨 四十二
幼幼こまぐち也常武貞觀八年十二月十六日右
大将廿一歳卒貞觀七年二月右馬頭貞觀八年
出帝卒之天保二年也されん年なるは
作善好の追善致あるありしとありし
や天保二年よりいじりしもの事し
りきよはの事し七こ日らひし
不事やけり作物徳のほの
なるは年月のちのけふ
親王の御神の
まはるる
の事し

貞觀八年
貞觀七年
貞觀六年
貞觀五年
貞觀四年

道達院殿勅物云 出帝全御事貞觀十
三年九月廿二日あり 常武在右馬頭貞觀七
年二月あり今康親王の父貞觀元年の
日十四年薨ありけりしは
よむる事貞觀十三年に
の地かす可物とく思見ふは
十一月十四日に卒すとあり 貞觀八年の
又いふる事れとも常武はたわぬ
貞觀八年や事事たる馬頭と
らへは出帝の卒せりし事 貞觀八年の
の事しあり

宮貞觀元年五月入道同十四年薨 四十二

幼幼こまもや常河貞觀八年十二月十六日右
大将兼一業平貞觀七年二月右馬頭一信の
弟河平三年二月二年やされん年ねお遣は
作善好の追昔致あるわりのふあやまの
や万安二年一いついよねの事し四七条
りきよほの事し七こ四つらひんえあつむ
石島やけい作お徳のくほいよのの
なるる年月のさうらにけふるや今康
親王成禅師しるるるるるるるるるる
室家つらひんえ徳くもれいよのふら
りけしよくお善もつていんわい

嘉祥三年ニ改元

仁壽三年

齊衡三年

天安二年

貞觀十八年

幼幼物云 弟河平三年在馬頭貞觀七
年しあり 常河在右大将一信の
十二月の 對平在馬頭貞觀七
年の今康親王の弟貞觀元年や
一いひ 薨しありけいけいけいけいけいけい
よれま一貞觀十二年にけいけいけいけいけい
の地中可動く思見云けいけい 三年あ元年
十一月十四日に三年よれけい 有信信の
兄いふりきれとも常河のちわいけいけい
貞觀八年や常河の馬頭し四七年にき
らけいけい三年の事しけいけい 貞觀八年後
の事しあり

Handwritten notes at the top of the page, possibly a title or index, including characters like 神代, 皇統, and 皇紀.

Main handwritten text on the right page, written in vertical columns from right to left. It appears to be a historical record or genealogy, mentioning names and dates in a cursive style.

Main handwritten text on the left page, continuing the vertical columns from right to left. It contains similar cursive text, likely part of the same historical record as the right page.

又こころひなまがしほの影のまげせ
 さらせまの影のまげせ
 多のねまの影のまげせ
 おろまの影のまげせ
 みまの影のまげせ
 まの影のまげせ
 千里の影のまげせ
 果地神代上御鏡圖像別之書巻神代之
 中在之板として給ふは他なる
 有思慮之智
 況中一三國廟
 フロミンガリノサトリ

中より百葉の前後の二葉のまげせ
 思葉のまげせ
 まの影のまげせ
 はまの影のまげせ
 利劍西平東本官も術の百葉のまげせ
 の影のまげせ
 吾の影のまげせ
 勘云貞観八年三月廿二日行幸本本館
 相日花鳥のまげせ
 本館のまげせ
 本館のまげせ

この書は、
その内容が、
非常に興味深いものであり、
読者の心を捉へておられること
を、私は、
心から歓迎いたします。
この書は、
私の心を、
大いに感動させ、
そして、
多くのことを
考えさせること
になりました。
この書は、
私の心を、
大いに感動させ、
そして、
多くのことを
考えさせること
になりました。

才九交
七十九

この書は、
私の心を、
大いに感動させ、
そして、
多くのことを
考えさせること
になりました。

この書は、
私の心を、
大いに感動させ、
そして、
多くのことを
考えさせること
になりました。

竹の如く塵に似て塵物も亦直に似て帯も亦帯
玉の如く塵に似て塵物も亦直に似て帯も亦帯
ていふも似ていふも似ていふも似ていふも似て
脱初めの一は是れに極意を盡す熱にして人の
苦痛を極めずとも是れを極めずとも是れを極めずとも
然るをいふは其の極意を盡す熱にして人の

あはれいふも似ていふも似ていふも似ていふも似て
の中納めをいふも似ていふも似ていふも似ていふも似て

書平の如くいふも似ていふも似ていふも似ていふも似て

天福平徳本同

劫云 身教報も清極なり母中納めも平徳也
書平の如くいふも似ていふも似ていふも似ていふも似て

八十一

いふも似ていふも似ていふも似ていふも似ていふも似て

いふも似ていふも似ていふも似ていふも似ていふも似て

いふも似ていふも似ていふも似ていふも似ていふも似て

書平の如くいふも似ていふも似ていふも似ていふも似て

古は平中納めも清極なり母中納めも平徳也

いふも似ていふも似ていふも似ていふも似ていふも似て

書平

いふも似ていふも似ていふも似ていふも似ていふも似て

いふも似ていふも似ていふも似ていふも似ていふも似て

いふも似ていふも似ていふも似ていふも似ていふも似て

いふも似ていふも似ていふも似ていふも似ていふも似て

いふも似ていふも似ていふも似ていふも似ていふも似て

いふも似ていふも似ていふも似ていふも似ていふも似て

入道は十一歳日...

清らけりてわらへりしはなほありし時
妻とて書しものやうなれどもよきまをの流ありひ
在り乃やうのその別ふかきとて思ふらん
あてしきありしは流やあふらんしよのま
かきよの秋玉よきアノ下よりありしよふらや東
彦よあふれり

河東流賦 池放鯨鯨山住虎狼業錦映水尊
奪副の色

源順賦 蘆錐鏡所日波鴻賦浪葉錦照水時
彩筆添色

同賦 水吟池無三夜夏松高風有一聲秋
も賦の中よりあり 湖海のせきくゆる河東院の

あふれり
あふれり

あふれりあふれりあふれりあふれり
あふれりあふれりあふれりあふれり

あふれりあふれりあふれりあふれり

あふれりあふれりあふれりあふれり

あふれりあふれりあふれりあふれり

あふれりあふれりあふれりあふれり
あふれりあふれりあふれりあふれり

あふれりあふれりあふれりあふれり
あふれりあふれりあふれりあふれり

あふれりあふれりあふれりあふれり

春^さにうけ^ありし^との^つま^には^のつ^づき^のい^はな^るを^かこ^いて^おも^いは^せし^ます^も
妻^よと^あら^わぬ^のが^たら^しの^あら^わぬ^のが^たら^しの^あら^わぬ^の
在任中
在^あら^わぬ^のが^たら^しの^あら^わぬ^の
幕日

つ^づき^のい^はな^るを^かこ^いて^おも^いは^せし^ます^も
つ^づき^のい^はな^るを^かこ^いて^おも^いは^せし^ます^も

つ^づき^のい^はな^るを^かこ^いて^おも^いは^せし^ます^も

河原院^{カハラのイヌ}毎^ヘ日^ニ潮^シヲ^ト右^{ミナ}運^ン入^ル

源順^{ゲンジュン}賦^ヒ

蘆^{アシ}錐^ヱ鏡^{キョウ}所^ノ白^{シラ}波^{ナミ}鳴^ネ威^イ浪^{ナミ}葉^{エフ}錦^ニ映^ヒ水^{ミヅ}尊^{ウツ}

河原院^{カハラのイヌ}毎^ヘ日^ニ潮^シヲ^ト右^{ミナ}運^ン入^ル

同^{ドウ}賦^ヒ

木^キ明^{アキ}夜^ヤ夏^カ松^{マツ}高^{タカ}風^{カゼ}有^{アル}一聲^{イツセイ}舟^{フネ}秋^{アキ}た^たも^も
も^も賦^ヒの^ノ中^ノに^ニあり^{あり}潮^シ運^ン入^ルの^ノ中^ノに^ニあり^{あり}

つ^づき^のい^はな^るを^かこ^いて^おも^いは^せし^ます^も
つ^づき^のい^はな^るを^かこ^いて^おも^いは^せし^ます^も

つ^づき^のい^はな^るを^かこ^いて^おも^いは^せし^ます^も
つ^づき^のい^はな^るを^かこ^いて^おも^いは^せし^ます^も

つ^づき^のい^はな^るを^かこ^いて^おも^いは^せし^ます^も

つ^づき^のい^はな^るを^かこ^いて^おも^いは^せし^ます^も

つ^づき^のい^はな^るを^かこ^いて^おも^いは^せし^ます^も

つ^づき^のい^はな^るを^かこ^いて^おも^いは^せし^ます^も
つ^づき^のい^はな^るを^かこ^いて^おも^いは^せし^ます^も

つ^づき^のい^はな^るを^かこ^いて^おも^いは^せし^ます^も

ありしはもてかゝるる人々ありしはもてかゝるる人々の
よめよ

その人の名はされたり書丹の漢書とわく
まよやるる書丹大和國け声のよめよ下院
は阿倍兼光の子にけり中にあはるるまては漢書
ふれしはけりてまて

^東書丹にけりしはもてかゝるる人々のよめよ

~~書丹~~にけりしはもてかゝるる人々のよめよ

まてにけりしはもてかゝるる人々のよめよ

まてにけりしはもてかゝるる人々のよめよ

まてにけりしはもてかゝるる人々のよめよ

まてにけりしはもてかゝるる人々のよめよ

まてにけりしはもてかゝるる人々のよめよ

有書丹の書

まてにけりしはもてかゝるる人々のよめよ

まてにけりしはもてかゝるる人々のよめよ

目録の款
七

1861年11月21日 倫敦

Dear Mr. Galt
I have just received
your letter of the 17th inst.
and am glad to hear
that you are well and
hope to see you soon.
I am, dear sir,
very respectfully,
Your obedient servant,
J. Galt

Dear Mr. Galt
I have just received
your letter of the 17th inst.
and am glad to hear
that you are well and
hope to see you soon.
I am, dear sir,
very respectfully,
Your obedient servant,
J. Galt

is an old Galley in some way
the other is a very fine
one the other is a very
fine one the other is a
fine one the other is a
fine one the other is a
fine one the other is a
fine one the other is a
fine one the other is a
fine one the other is a

右二舟より一舟は...
右二舟より一舟は...

^今美柳枝姫神織神上
右二舟拾遺在...
右二舟より一舟は...

又二舟より一舟は...
又二舟より一舟は...

右舟一早意幸一の舟より一舟は...
一たまつらばや惟書...の御舟...は
一たまつらばや惟書...の御舟...は
舟より一舟は...
舟より一舟は...

右舟一早意幸一の舟より一舟は...
舟より一舟は...
舟より一舟は...
舟より一舟は...
舟より一舟は...
舟より一舟は...
舟より一舟は...
舟より一舟は...

手紙の宛先
山形県 仙台市
山形県 仙台市

Dear Mother and Sister
I am well and hope

you are the same. I have not much news to write at present.

I am still in the same place and hope to stay here for some time longer.

I have not much news to write at present. I am still in the same place and hope to stay here for some time longer.

I have not much news to write at present. I am still in the same place and hope to stay here for some time longer.

I have not much news to write at present. I am still in the same place and hope to stay here for some time longer.

I have not much news to write at present. I am still in the same place and hope to stay here for some time longer.

I have not much news to write at present. I am still in the same place and hope to stay here for some time longer.

I have not much news to write at present. I am still in the same place and hope to stay here for some time longer.

I have not much news to write at present. I am still in the same place and hope to stay here for some time longer.

I have not much news to write at present. I am still in the same place and hope to stay here for some time longer.

I have not much news to write at present. I am still in the same place and hope to stay here for some time longer.

I have not much news to write at present. I am still in the same place and hope to stay here for some time longer.

I have not much news to write at present. I am still in the same place and hope to stay here for some time longer.

I have not much news to write at present. I am still in the same place and hope to stay here for some time longer.

I have not much news to write at present. I am still in the same place and hope to stay here for some time longer.

上野 孝雄

Mr. Goshino's Japanese name is ...

手紙の宛先 先生
食料が足りないから
...
...
...
...
...
...

...
...
...
...
...
...
...

...
...
...
...
...
...
...

...
...
...
...
...
...
...

...

...
...
...
...
...
...
...

...
...
...
...
...
...
...

...

上野先生
...
...
...
...
...

おきりまゝにせられたり

御所の御用書に御所の字跡あり

昔の御用書に御所の字跡あり

昔の御用書に御所の字跡あり

皇子珍愛及王位臨命終時不道者

光ねられたり

光ねられたり

天福

御用書に御所の字跡あり

御用書に御所の字跡あり

御用書に御所の字跡あり

御用書に御所の字跡あり

十五

御用書に御所の字跡あり

御用書に御所の字跡あり

御用書に御所の字跡あり

御用書に御所の字跡あり

御用書に御所の字跡あり

御用書に御所の字跡あり

御用書に御所の字跡あり

御用書に御所の字跡あり

御用書に御所の字跡あり

Handwritten notes at the top of the page, possibly a title or index reference.

Main body of handwritten text on the right page, consisting of several lines of cursive script.

Main body of handwritten text on the left page, consisting of several lines of cursive script.

わふるに命なりきふらむもつらき事ありては
 のまじたりとせむしき事ありては
 いかんことなきことなき事ありては
 不滅候べき事ありては
 地獄なき事ありては
 天國なき事ありては
 神の徳なき事ありては
 佛の徳なき事ありては
 一に無常の事ありては
 なるしてはせむしき事あり
 あれはせむしき事あり
 事無かる

此の事なき事ありては
 地獄なき事ありては
 天國なき事ありては
 神の徳なき事ありては
 佛の徳なき事ありては
 一に無常の事ありては
 なるしてはせむしき事あり
 あれはせむしき事あり
 事無かる

別名は河を舟に有能なるものなり
其の舟に舟子ありて舟を動かす
舟は舟子ありて舟を動かす
舟は舟子ありて舟を動かす
舟は舟子ありて舟を動かす

舟は舟子ありて舟を動かす
舟は舟子ありて舟を動かす
舟は舟子ありて舟を動かす
舟は舟子ありて舟を動かす
舟は舟子ありて舟を動かす

舟は舟子ありて舟を動かす
舟は舟子ありて舟を動かす
舟は舟子ありて舟を動かす
舟は舟子ありて舟を動かす
舟は舟子ありて舟を動かす

舟は舟子ありて舟を動かす

舟は舟子ありて舟を動かす
舟は舟子ありて舟を動かす
舟は舟子ありて舟を動かす
舟は舟子ありて舟を動かす
舟は舟子ありて舟を動かす

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a dark ink on aged paper. It consists of several lines of text, with some words appearing to be in a different script or dialect than others, possibly indicating a mix of languages or a specific regional dialect. The text is somewhat faded and difficult to decipher precisely, but it appears to be a continuous narrative or record.

Handwritten text in a cursive script, similar to the left page. This page also contains several lines of text, with some words appearing to be in a different script or dialect. The text is somewhat faded and difficult to decipher precisely, but it appears to be a continuous narrative or record. There are some markings that look like small symbols or characters interspersed with the main text.

1892
 1893
 1894
 1895
 1896
 1897
 1898
 1899
 1900
 1901
 1902
 1903
 1904
 1905
 1906
 1907
 1908
 1909
 1910
 1911
 1912
 1913
 1914
 1915
 1916
 1917
 1918
 1919
 1920
 1921
 1922
 1923
 1924
 1925
 1926
 1927
 1928
 1929
 1930
 1931
 1932
 1933
 1934
 1935
 1936
 1937
 1938
 1939
 1940
 1941
 1942
 1943
 1944
 1945
 1946
 1947
 1948
 1949
 1950
 1951
 1952
 1953
 1954
 1955
 1956
 1957
 1958
 1959
 1960
 1961
 1962
 1963
 1964
 1965
 1966
 1967
 1968
 1969
 1970
 1971
 1972
 1973
 1974
 1975
 1976
 1977
 1978
 1979
 1980
 1981
 1982
 1983
 1984
 1985
 1986
 1987
 1988
 1989
 1990
 1991
 1992
 1993
 1994
 1995
 1996
 1997
 1998
 1999
 2000

1892
 1893
 1894
 1895
 1896
 1897
 1898
 1899
 1900
 1901
 1902
 1903
 1904
 1905
 1906
 1907
 1908
 1909
 1910
 1911
 1912
 1913
 1914
 1915
 1916
 1917
 1918
 1919
 1920
 1921
 1922
 1923
 1924
 1925
 1926
 1927
 1928
 1929
 1930
 1931
 1932
 1933
 1934
 1935
 1936
 1937
 1938
 1939
 1940
 1941
 1942
 1943
 1944
 1945
 1946
 1947
 1948
 1949
 1950
 1951
 1952
 1953
 1954
 1955
 1956
 1957
 1958
 1959
 1960
 1961
 1962
 1963
 1964
 1965
 1966
 1967
 1968
 1969
 1970
 1971
 1972
 1973
 1974
 1975
 1976
 1977
 1978
 1979
 1980
 1981
 1982
 1983
 1984
 1985
 1986
 1987
 1988
 1989
 1990
 1991
 1992
 1993
 1994
 1995
 1996
 1997
 1998
 1999
 2000

云々（一）
 今世男（二）
 女（三）
 一（四）
 一（五）

秋の（六）
 秋の（七）
 秋の（八）
 秋の（九）
 秋の（十）
 秋の（十一）
 秋の（十二）
 秋の（十三）

秋の（十四）

秋の（十五）
 秋の（十六）
 秋の（十七）
 秋の（十八）
 秋の（十九）
 秋の（二十）
 秋の（二十一）
 秋の（二十二）
 秋の（二十三）
 秋の（二十四）

九十五

秋の（二十五）
 秋の（二十六）
 秋の（二十七）
 秋の（二十八）
 秋の（二十九）
 秋の（三十）
 秋の（三十一）
 秋の（三十二）

いかにのびたものか
いかにのびたものか

いかにのびたものか

姪

いかにのびたものか

いかにのびたものか

いかにのびたものか

いかにのびたものか

いかにのびたものか

いかにのびたものか

いかにのびたものか

いかにのびたものか

いかにのびたものか

九十六

いかにのびたものか

いかにのびたものか

いかにのびたものか

いかにのびたものか

いかにのびたものか

いかにのびたものか

いかにのびたものか

いかにのびたものか

いかにのびたものか

Springtime will be a time of
the flowers and the birds
the people will be happy
the children will be playing
the old people will be
the young people will be
the people will be happy
the children will be playing
the old people will be
the young people will be

Springtime will be a time of
the flowers and the birds
the people will be happy
the children will be playing
the old people will be
the young people will be

Springtime will be a time of
the flowers and the birds
the people will be happy
the children will be playing
the old people will be
the young people will be

Springtime will be a time of
the flowers and the birds
the people will be happy
the children will be playing
the old people will be
the young people will be

Springtime will be a time of
the flowers and the birds
the people will be happy
the children will be playing
the old people will be
the young people will be

Springtime will be a time of
the flowers and the birds
the people will be happy
the children will be playing
the old people will be
the young people will be

春の季節は花と鳥の季節
人々は幸せで子供は遊ぶ
老人は静かに暮らす
若者は元気に暮らす
春の季節は花と鳥の季節
人々は幸せで子供は遊ぶ
老人は静かに暮らす
若者は元気に暮らす

九次
しりしりきと降せられしあり
じりおほほおおいしりしりきと降せられしあり
しりしりきと降せられしあり
しりしりきと降せられしあり
しりしりきと降せられしあり

本政本臣之忠作忠勳之忠作忠勳元二年二
月十九日大政大臣五十五箇月九日従二位二年
十一月持政清和原祖
同三年清和天皇九歳に即位すつを以て
持政しりしりきと降せられしあり
崇寧二年堀河の本政本臣も又侍臣の御
しりしりきと降せられしあり

忠作忠勳之忠作忠勳
しりしりきと降せられしあり

忠作忠勳之忠作忠勳
しりしりきと降せられしあり
忠作忠勳之忠作忠勳
しりしりきと降せられしあり
忠作忠勳之忠作忠勳
しりしりきと降せられしあり
忠作忠勳之忠作忠勳
しりしりきと降せられしあり
忠作忠勳之忠作忠勳
しりしりきと降せられしあり
忠作忠勳之忠作忠勳
しりしりきと降せられしあり

小あらうきぬらのこゝろありたりとまはし
 と久すはりりありたれどもとらひあふ
 ことそしきよありしとらひあふこと
 まことしきよありしとらひあふこと
 ありしとらひあふことまことしきよありしとらひあふこと

行平 兼平乃先也 昌本 兼平 兼平 天福
 觀十二年正月右中侍十九年時乃侍
 兼平 兼平乃先也 昌本 兼平 兼平 天福
 兼平 兼平乃先也 昌本 兼平 兼平 天福

字文

子路同政
 注 是也
 兼平乃先也
 別 兼平
 不 兼平

兼平乃先也 昌本 兼平 兼平 天福
 兼平 兼平乃先也 昌本 兼平 兼平 天福

兼平 兼平乃先也 昌本 兼平 兼平 天福
 兼平 兼平乃先也 昌本 兼平 兼平 天福
 兼平 兼平乃先也 昌本 兼平 兼平 天福
 兼平 兼平乃先也 昌本 兼平 兼平 天福

海に遊ぶ事の樂を感へて、わづかに別れ
て、いづれかまたはさるるのされぬをいひて、
自記して、

岡本のさふくろしん 岡本 有に海に遊ぶ
藤原乃事件の樂をいひて、
・ 本日守右の下にけあやして有に海に遊ぶ
あつて、いづれかまたはさるるのされぬをいひて、
あつて、いづれかまたはさるるのされぬをいひて、

はまた海に遊ぶ事、
いづれかまたはさるるのされぬをいひて、

いづれかまたはさるるのされぬをいひて、
あつて、いづれかまたはさるるのされぬをいひて、
あつて、いづれかまたはさるるのされぬをいひて、

あつて、いづれかまたはさるるのされぬをいひて、
あつて、いづれかまたはさるるのされぬをいひて、
あつて、いづれかまたはさるるのされぬをいひて、

百五
年記
一
二
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十

一
二
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十

百五

一
二
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十

Handwritten text in cursive script, likely a list or notes.

Handwritten text in cursive script, possibly a title or section header.

Handwritten text in cursive script, continuing the notes.

Handwritten text in cursive script, continuing the notes.

Handwritten text in cursive script, continuing the notes.

Handwritten text at the top of the page, possibly a title or section header.

Handwritten text at the top of the page, possibly a title or section header.

Handwritten text at the top of the page, possibly a title or section header.

Handwritten text at the top of the page, possibly a title or section header.

Handwritten text at the top of the page, possibly a title or section header.

Handwritten text at the top of the page, possibly a title or section header.

Handwritten text in cursive script, likely a list or notes.

Handwritten text in cursive script, likely a list or notes.

Handwritten text in cursive script, likely a list or notes.

Handwritten text in cursive script, likely a list or notes.

Handwritten text in cursive script, likely a list or notes.

Handwritten text in cursive script, likely a list or notes.

Handwritten text in cursive script, likely a list or notes.

Handwritten text in a cursive script, likely a diary or journal entry. The text is written vertically on the right page of an open notebook. It begins with a small header that appears to be "1872" and "10月". The main body of text consists of several lines of dense, flowing characters. There are some corrections or deletions indicated by horizontal lines through the text. The handwriting is consistent throughout the page.

Handwritten text in a cursive script, likely a diary or journal entry. The text is written vertically on the left page of an open notebook. It begins with a small header that appears to be "1872" and "10月". The main body of text consists of several lines of dense, flowing characters. There are some corrections or deletions indicated by horizontal lines through the text. The handwriting is consistent throughout the page.

Handwritten text in cursive script, starting with a large initial letter 'S'.

Handwritten text in cursive script, starting with a large initial letter 'S'.

Handwritten text in cursive script, starting with a large initial letter 'S'.

Handwritten text in cursive script, starting with a large initial letter 'S'.

Handwritten text in cursive script, starting with a large initial letter 'S'.

Wiederholung der ersten Lektion

Handwritten musical notation with a treble clef and a key signature of one flat. The notes are written in a fluid, cursive style. A large 'F' is written at the beginning of the first staff.

Handwritten musical notation, continuing from the previous page. It features a treble clef and a key signature of one flat, with notes written in a fluid, cursive style.

頁 100

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a dark ink on aged paper. It begins with a large initial letter and continues with several lines of text, including some words that appear to be 'Santissima' and 'Sanctissima'.

Handwritten text in a cursive script, continuing from the previous page. It features several lines of text, including a prominent initial 'C' and various words and phrases. The script is consistent with the previous page, suggesting it is part of the same document.

百
五
友
則

東集第廿六巻傷の多し
あり別本別ありといふ
多れどもより一人に
はよらば
し
百
廿
二
百
五
友
則

百
五
友
則
し
は
よ
ら
ば
し
百
廿
二
百
五
友
則
し
は
よ
ら
ば
し

神代

この物語は、東家或母に於て、首載に正可正あり

行幸の由、東家果書より、神代に同く、神代に正可正あり

中が、神代の行幸、神代に正可正あり、神代に正可正あり

の、神代の行幸、神代に正可正あり、神代に正可正あり

の、神代の行幸、神代に正可正あり、神代に正可正あり

の、神代の行幸、神代に正可正あり、神代に正可正あり

の、神代の行幸、神代に正可正あり、神代に正可正あり

の、神代の行幸、神代に正可正あり、神代に正可正あり

の、神代の行幸、神代に正可正あり、神代に正可正あり

の、神代の行幸、神代に正可正あり、神代に正可正あり

の、神代の行幸、神代に正可正あり、神代に正可正あり

の、神代の行幸、神代に正可正あり、神代に正可正あり

の、神代の行幸、神代に正可正あり、神代に正可正あり

仁祖の所、神代の行幸、神代に正可正あり、神代に正可正あり

の、神代の行幸、神代に正可正あり、神代に正可正あり

の、神代の行幸、神代に正可正あり、神代に正可正あり

の、神代の行幸、神代に正可正あり、神代に正可正あり

の、神代の行幸、神代に正可正あり、神代に正可正あり

の、神代の行幸、神代に正可正あり、神代に正可正あり

の、神代の行幸、神代に正可正あり、神代に正可正あり

の、神代の行幸、神代に正可正あり、神代に正可正あり

の、神代の行幸、神代に正可正あり、神代に正可正あり

の、神代の行幸、神代に正可正あり、神代に正可正あり

の、神代の行幸、神代に正可正あり、神代に正可正あり

仁祖二十二年二月廿四日

後撰集卷十五 雜一 けりし初書

おんあつ

お標五

お標五の御事お尋ねしはるにSoft of the 御事お尋ねしはる
お尋ねしはる御事お尋ねしはるにSoft of the 御事お尋ねしはる
お尋ねしはる御事お尋ねしはるにSoft of the 御事お尋ねしはる
お尋ねしはる御事お尋ねしはるにSoft of the 御事お尋ねしはる
お尋ねしはる御事お尋ねしはるにSoft of the 御事お尋ねしはる

洗ひあり

後梅

お尋ねしはる御事お尋ねしはるにSoft of the 御事お尋ねしはる
お尋ねしはる御事お尋ねしはるにSoft of the 御事お尋ねしはる
お尋ねしはる御事お尋ねしはるにSoft of the 御事お尋ねしはる
お尋ねしはる御事お尋ねしはるにSoft of the 御事お尋ねしはる
お尋ねしはる御事お尋ねしはるにSoft of the 御事お尋ねしはる

お尋ねしはる御事お尋ねしはるにSoft of the 御事お尋ねしはる
お尋ねしはる御事お尋ねしはるにSoft of the 御事お尋ねしはる
お尋ねしはる御事お尋ねしはるにSoft of the 御事お尋ねしはる
お尋ねしはる御事お尋ねしはるにSoft of the 御事お尋ねしはる
お尋ねしはる御事お尋ねしはるにSoft of the 御事お尋ねしはる

宿轉毛トト書ナリ
馬ノ毛ニ如ク

お尋ねしはる御事お尋ねしはるにSoft of the 御事お尋ねしはる
お尋ねしはる御事お尋ねしはるにSoft of the 御事お尋ねしはる
お尋ねしはる御事お尋ねしはるにSoft of the 御事お尋ねしはる
お尋ねしはる御事お尋ねしはるにSoft of the 御事お尋ねしはる
お尋ねしはる御事お尋ねしはるにSoft of the 御事お尋ねしはる

お尋ねしはる御事お尋ねしはるにSoft of the 御事お尋ねしはる

沙は福園の抄をそめられたる

じーからのついであつたあつたつらあつたつら
つらつらつらつらつらつらつらつらつらつら
つらつらつらつらつらつらつらつらつらつら
つらつらつらつらつらつらつらつらつらつら

つらつらつらつらつらつらつらつらつらつら

つらつらつらつらつらつらつらつらつらつら
つらつらつらつらつらつらつらつらつらつら
つらつらつらつらつらつらつらつらつらつら
つらつらつらつらつらつらつらつらつらつら

つらつらつらつらつらつらつらつらつらつら

つらつらつらつらつらつらつらつらつらつら

つらつらつらつらつらつらつらつらつらつら

つらつらつらつらつらつらつらつらつらつら

つらつらつらつらつらつらつらつらつらつら

つらつらつらつらつらつらつらつらつらつら
つらつらつらつらつらつらつらつらつらつら
つらつらつらつらつらつらつらつらつらつら
つらつらつらつらつらつらつらつらつらつら

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or document. The text is written in a fluid, connected style. It begins with a small number '100' at the top left of the page. The text is arranged in several lines, with some words appearing to be underlined or emphasized. The script is dense and characteristic of historical cursive handwriting.

Handwritten text in a cursive script, continuing from the previous page. The text is written in a fluid, connected style. It begins with a small number '100' at the top left of the page. The text is arranged in several lines, with some words appearing to be underlined or emphasized. The script is dense and characteristic of historical cursive handwriting.

Handwritten text in a cursive script, continuing from the previous page. The text is written in a fluid, connected style. It begins with a small number '100' at the top left of the page. The text is arranged in several lines, with some words appearing to be underlined or emphasized. The script is dense and characteristic of historical cursive handwriting.

Handwritten text in a cursive script, continuing from the previous page. The text is written in a fluid, connected style. It begins with a small number '100' at the top left of the page. The text is arranged in several lines, with some words appearing to be underlined or emphasized. The script is dense and characteristic of historical cursive handwriting.

Handwritten text in Arabic script, consisting of several lines of cursive script.

Handwritten mark or symbol at the start of a line.

Handwritten text in Arabic script, consisting of several lines of cursive script.

Handwritten mark or symbol at the start of a line.

Handwritten text in Arabic script, starting with a small mark above the first letter.

Handwritten text in Arabic script, starting with a small mark above the first letter.

Handwritten text in Arabic script, consisting of several lines of cursive script.

半一 *Handwritten characters*

~~Handwritten text~~ ^{日書} *Handwritten characters* ^{左神} *Handwritten characters*

Handwritten text in cursive script

Handwritten text in cursive script

百三 *Handwritten characters*

^杖 *Handwritten characters* ^福 *Handwritten characters*

被讀由此日
 於議定
 至十五段二日
 於中司
 以下由至十六段
 自至二十段
 九月至十一
 十一日
 十三日終卯
 真一監不讀申
 六ヶ度ノ段
 命以重
 深分ノ一ヨリ
 十六日ヨリ
 東集於
 御堂回於
 一至梅弁ノ
 日二年四月廿六
 終切ナ
 大御上下直事等乃者并回之命也
 由之果之有依仰於 御前事之及之礼
 私又行與の者 見出右為之礼之平

天福本之奥云

業平朝臣

年日任左近將監 永和十四年正月補藏人
 嘉祥二年正月七日從五位下 貞觀四年正月七日從五位上
 五年二月十日左兵衛權佐 六年三月八日右近少將七年三月
 月九日右馬權頭十一年正月七日正五位下十五年正
 月七日從四位下 元慶元年正月十日右近權中將
 十一月又一日從四位上二年正月十一日相摸權守三年
 十月藏人頭四年正月十一日美濃權守同五月又八日

卒 時年五十六歲

親王

行平卿

手城弟三 母正五位下 善長藤絶女
 永和九年十月薨贈一品 阿保親王二男

天長三年 仲平 行平 守平 業平 賜姓在京都
康和七年正月截今十二月辭退大日從立下大十年
二月侍從十二年正月從立上任九兵衛佐五月右近少
將仁壽三年正立下齊衡二年正月四位因備守四年
兵部大輔 天安二年二月中發太甫四月九馬頭三
年正月備八守貞觀二年六月內近頭八月大六日
京大夫四年正月信乃守同月從立五年二月大藏大
甫六年正月十六日備前本守三月八日兼九兵衛督年
正月正四位下十年五月兼備中守貞觀十二年二月
十三日兼議事大三月大六日九兵衛督十四年大九兵衛門督年
五年從三位大宰師元慶元年治了弼十月十四日
別當六年正月中納言大五年正三位民了弼仁和元

年按察仁和三年四月十三日致仕寬平五年薨

紀有常

康和十一年正月十一日右兵衛大尉嘉祥三年四月二日
九近將監日致知本五月十七日兼近江大掾仁壽元年七月
六月六日兼九馬助十一月甲子從立位下二年二月大八日兼
但馬介三年正月十六日右兵衛佐四年正六月兼備後
女轉九兵衛補衡二年正月從立位上同十五日九近
少將天安元年九月大七日兼少納言二年二月昔兼
肥後權守貞觀七年三月九日任刑了權大輔九年
二月十一日住下野權守十五年正月七日止立位下十七年
二月十七日任雅樂頭十八年正月七日從四位下十九年
正月大三日卒年六十一

藤原

中納言左衛門督贈大政大臣藤原女
母紀伊守能繼女

貞觀元年十一月廿日從五位下常葉女貞觀八年十二月
廿日宣旨九年正月八日正五位下十年十二月廿六日
生於一皇子初七十一年二月立為皇太子十二年正月
八日從三位元慶元年正月二日即位立為中宮廿六
六年正月七日為皇太后宮寬平八年九月廿日停后
位延喜十年十二月薨廿九天長六年五月遷也禮后
位

河原左大臣融源氏

長和五年十一月廿七日正四位下元曆六年正月上國侍
從八年正月相摸守九年九月已亥近江守十五年
二月右近中將兼兼作守嘉祥三年正月七日從三位

廿月右衛門督仁壽四年八月兼伊勢守貞觀二年九月任
系議右衛門督伊勢守如元

あり(句)

百葉集才十八

都公しん夜

あはれわしれ終しん夜

月也

あはれわしれ終

亦也

いそふふくしりし宿所のよこるれしん夜

守玉神小娘

素戔尊之讓寄於志解春而體周

曹子建 洛陽賦

環姿艷速儀靜體閑

乃々ハ乃々ハ乃々ハ乃々ハ

乃々ハ乃々ハ乃々ハ乃々ハ乃々ハ乃々ハ乃々ハ乃々ハ

尺福二年正月廿日己未申刻凌柰門

之旨日連日風雪之中遂此書寫為

授鐘愛之孫也

同文二日授之

世間流布之本與書端載之仍畧之其與書之次云
其休實錄云元慶四年五月廿八日辛巳從四位上右近
衛權中將兼兼濃權守在原朝臣兼平卒業卒者
故四品所係親王第王子正三位行中納言行平弟之所係
親王娶權中末皇女伊重內親王生兼平天長三年親王
上表日年高而親王之男女先傳王号賜朝臣姓
臣之子息未預改姓既為民第之子寧異齒列之羞於
是詔仲平行平兼平等賜姓在原朝臣兼平躬
只因展放銀不拘略等文字善作和歌貞觀四年
三月授從五位上五年二月拜左兵衛佐數年遷左近衛
權少將尋遷右馬頭累如至從四位下元慶元年遷
為右近衛權中將明年兼相摸權守後遷兼兼

濃權守卒時年 卅六

光仁天皇才皇子

桓武天皇

辛城天皇

阿保親王

大江音人

宇多天皇十四歲之御歲業卒卒
任敏成帝之更衣之西宮帝業
平俊五年後仁和元生

在原仲平

師古

滋香

嵯峨天皇 仁明天皇

深草帝

文德天皇

圓帝

清和天皇

惟春親王

陽成天皇

貞觀十三年天子二

淳和天皇

西院帝

光孝天皇

小松帝

宇多天皇

惟春親王

貞教親王

宗子内親王

二西

人康親王

山科宮 法名法性

貞教親王

廿七 賀陽親王

廿四 伊豆内親王

真夏

演雄

家宗

弘蔭

繼蔭 女子

源定

至舉

順

源融

從三位

合藏

藏曆

繩繼

吉野

良近

高用

伊弉義孝行成行經伊房定實定信伊行伊經

女子

内麿

真夏

冬嗣

長良

國經

順子

明子

專

温子

順子 攝和十二女御從二
嘉祥三十四年中宮仁壽
四十六皇太后后真觀三
二十九入道
因圖十一七五中宮清和
貞觀六正七皇太后后元服
六正七皇太后后元服
日依祖母昌泰三
貞觀十九回天中宮元慶
六正七皇太后后元服
四出用東遷三
八九女二廢后
貞觀十九七六中宮皇孫
二七女三皇太后后元服
朝号東三系

長良 贈大政大臣
中 凡御門省
大皇太后后
日御川大政大臣
忠仁公

國經 昭宣公攝政大臣
基經 實長長良卿
女子 高子
女子 高子
女子 高子

基經 實長長良卿
女子 高子
女子 高子
女子 高子

仲平 實賴
忠平 師
女子 伊弉義孝行

後醍醐天皇

世尊寺系

謙仁公

後少子

孔大

大守師

右京全

宮内全

宮内全

宮内全

建礼門院右京大夫
安徳天皇之御母后清盛

合安本取用捨也可備證本
 近代以狩使更爲端之本出東末代
 之人今案也更不可用之
 此物諸古人之說不同或稱在中將之
 自書或稱伊勢之筆作就皮此有
 書落事一木上古之人強不可尋其作
 者只可觀詞其言葉而已

戸部尚書

げ物傳の抄は通らりあまきりて毎夷のいほ
 多くてむかひくむかひるゝ出のころに葉を
 信つゝまうゝふいふに記保とてん
 一うあふむらり竹のほそきまらり此を
 三郎のよもほはつゝと老院内付うれ
 三のよゝゝりゝをきゝるふあふ御膳人
 ちゝ因せありてゆりゝと思ひて竹葉の
 ありの者命りゝ平うお徳又環翠彩とて
 道達院後(種也)ゝ惟清抄とありて
 一別その説もそ有竹而多とては
 ちてけゝゝとらるゝのやゝの合
 ちてけゝゝとらるゝのやゝの合

為き院友方是と准信 兼信 兼信 兼信 兼信 兼信
こふ字難紙也 可ふにふりてふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
信抄とあるを御流の御ふりてふふふふふふ
用抄せしむ御流も多國御難言言言御則
實事心也ふりてふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
千時又福女年仲ふふふふふふふふふふふふ

は下書き

九州大學圖書印

享八